

歴史解説と写真展

精神医療の歴史と 私宅監置

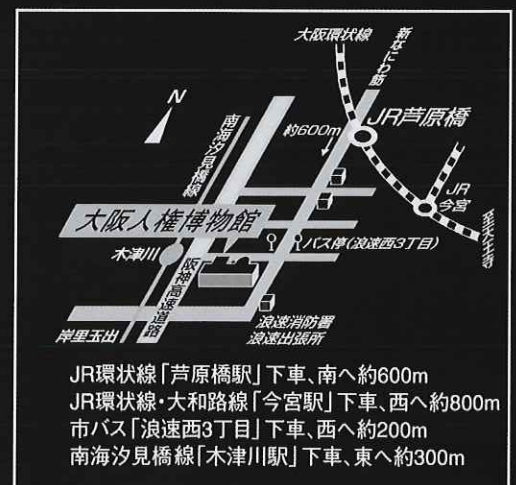
過去との対話から、
現在と未来へのメッセージ

会期 2017年9月6日(水)～2017年10月7日(土)

- 会場 大阪人権博物館 ギャラリー
- 開館時間 水～金曜日 10:00～16:00 (入館は15:30まで)
土曜日 13:00～17:00 (入館は16:30まで)
※日曜日、月曜日、火曜日、祝日、第4金曜日は休館
- 入館料 大人 500円(400円) 大学生・高校生 300円(200円)
小学生・中学生 200円(100円)、65歳以上 300円(200円)
※()内は、有料入館者が20名以上の団体料金
障害者(介助者を含む)は無料

【レクチャー&ギャラリートーク】

2017年9月16日(土)および10月7日(土) いずれも午後1時30分から
司会:モリコさん(エンパワメントペース大阪)
解説:橋本 明(愛知県立大学)



主催 近代日本精神医療史研究会／大阪人権博物館
後援・協力 大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類／人間社会システム科学研究科社会福祉学専攻
松田博幸研究室&三田優子研究室／公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会

歴史解説と写真展

精神医療の歴史と私宅監置

過去との対話から、現在と未来へのメッセージ

会期 2017年9月6日(水)～2017年10月7日(土)

【企画趣旨】

私たちは、一般市民の精神障害者への関心が深まることをめざして、精神医療に関する歴史を素材にした教育的プログラムを開発しています。その重要な柱として位置付けているのが、「精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト」です。これまで日本国内・国外の各地を移動して、小規模ながらも精神医療の歴史展示を行ってきました。

今回の企画展「精神医療の歴史と私宅監置 過去との対話から、現在と未来へのメッセージ」は、日本の近代という限られた条件で起きた私宅監置という特殊な現象を扱っているように見えるかもしれませんが、しかし、精神障害と向き合う国家、社会、人々の対応からは、空間と時間を超えたかなり普遍的な問題を読み取ることができるのではないのでしょうか。

折しも、来年(2018年)は呉秀三と樫田五郎による論文「精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的観察」が刊行されて百年にあたります。彼らの記述は、「私宅監置の悲惨さ」を伝えるものと理解されることが多いですが、当時の医療制度や民間療法の広がり、患者の家族や地域社会との関係など、近代日本の精神医療の多様な側面を浮き彫りにしています。

本展では、わが国の精神医療の過去を振り返り、さらにそれを現在と未来の議論へと拓くことによって、精神障害への関心を高め、理解を進めることについて、来館者と共に考えていきたいと思えます。

近代日本精神医療史研究会

大阪人権博物館